



## カバークロープ(レングエ)の活用について

- ・カバークロープの取組は、標準播種量以上に播種し、適正な栽培管理を行った上で、全量をすき込むことが要件となっています。
- ・これを満たさない場合は、環境保全型農業直接支払交付金の対象となりません。
- ・適正な栽培管理が行われているかどうかを、カバークロープがほ場の概ね8割以上を覆っていることとして、原則として4月以降に確認し判断します。

### ① ほ場準備

- ・早めに排水溝を切り、水尻につなげる等、麦作と同様の排水対策を行います。

### ② は種・覆土

10月上旬～10月下旬

- ・播種および覆土作業は、必ずほ場が乾いている時に行います。
- ・10アール当たり2～4kg 播種します(遅まきは多めに)。
- ・湿田では播種量を増やします。

※レングエの生育にムラがあると、レングエ跡水稻の生育ムラにつながりますので、播種ムラが無いように均一に播種しましょう。

- ・播種後にトラクタ等で軽く覆土します。
- ・水稻の収穫前に播種し、稲わらを被覆することで、覆土作業をしない方法もあります。ただし、この方法では排水が悪いほ場では生育ムラが大きくなるので、排水対策の徹底が必要です。



動噴での播種作業



播種後の覆土作業

### ③すき込み

4月中旬頃

- ・「レンゲ」の開花が全体の4割程度になった時が、すき込みの適期です。
- ・「レンゲ」の生育が良い場合は、早めにすき込みます。
- ・トラクタの速度を低速にし、丁寧な耕うんをおこないます。

#### 「レンゲ」すき込み作業

ロータリの回転を遅くして、  
ゆっくと、浅めにすき込みます。



### レンゲ跡水稻栽培の注意点

- 入水：「レンゲ」のすき込みから10日間程度開ける。  
(すき込み量が多い場合は長く空ける。)
- 田植え：入水から1週間以上空け、60～70株で植付ける。
- 基肥・追肥：原則施用しない。
- ガス発生抑制：ガス湧きが見られる場合は、早めに軽く干す。
- 中干し：目標の茎数が確保できたら、2週間以上行う。
- 穂肥：葉色を見て判断する。

初めてカバークロープに取り組まれる場合には、管轄の農業農村振興事務所農産普及課までご相談ください。